

さらなる実りある年へ

2012年7月に協会が発足し、2年目が終わります。2013年度は、6月の大会で幕を開けましたが、大会テーマは「Challenge to the “6”—6年目の原点回帰」でした。文部科学省の「スクールソーシャルワーカー活用事業」も6年目を迎え、改めて出発点に戻ってみようとの趣旨でした。時が流れ、日々の忙しさに追われ、初心を忘れがちになることがあります。スクールソーシャルワーカーの役割や任務を今一度確認して、子どもたちへの支援に際し、最善の実践(Best Practice)に向けて専門性を高めていく志を保持し続けることは大切なことです。そのためには、自己研鑽の機会である研修への参加が求められます。

2013年度の研修事業では、養成研修と基礎研修を2か月ごとに開催し、研修委員の尽力で充実した研修内容の実施で終わることができました。また、広報委員には研修チラシや広報誌、協会チラシなど、多才な才能で心を打つ広報活動をしてもらいました。さらに、研究委員には福岡県内のスクールソーシャルワーカーを対象とした調査研究を実施してもらい、間もなく会員の皆様に調査結果が公開されることとなります。

そして、2013年度の下半期ではとても喜ばしいことが起きました。1つ目は、協会の会員が100名に増えたことです。発足当初はその半数でしたが、協会への期待を実感する幸いです。そして、2つ目は、2014年度に向けて新たにスクールソーシャルワーカー事業を展開する市町教育委員会が増え、協会推薦の依頼をいただくようになったことです。協会としても県・市町村教育委員会との協働を図りつづけていきたいと考えています。さらに3つ目は、協会編集による新書の発刊です。直接支援を展開する福岡県のスクールソーシャルワーカーの実践を全国に伝えていくことを趣旨に、『スクールソーシャルワーカー実践事例集』が中央法規出版から4月に発刊されます。笑い涙と感動の内容となっています。スクールソーシャルワーカー必携の書ですので、購読ください。

以上、2013年度は協会の飛躍の年でもありました。この2013年度の取り組みを礎に、ぜひ2014年度は「さらなる実りある年」にしていきたいと思います！

福岡県スクールソーシャルワーカー協会
会長 門田光司



Follow the
tracks of
FASSW



Fukuoka

Association of

School Social Workers

7

第7回研修会

2014年2月15日(土)久留米大学御井キャンパスにて、第7回養成研修及び基礎研修が行われました。

前半に行われた基礎研修は、下田事務局長より「スクールソーシャルワーカーの動き～派遣型編～」というテーマでお話いただきました。北九州市が行っている派遣型のスクールソーシャルワーカー(以下SSW)の取り組みを「組織の体制」「派遣の流れ」「各関係機関の役割」という視点でまとめていただきました。SSWの一日のスケジュールを基に活動内容について詳しくお話いただく中で、派遣型のSSWが担う役割や動きがより具体的にイメージ出来た後、北九州市でSSWとして活動されている寺田さんより実践事例発表が行われました。様々な課題を抱える家庭に対し、本人や家族に寄り添いながら必要な支援を整理され、各関係機関と協働し支援されている実践を通して、SSWを目指す学生さんやSSWに興味を抱く研修参加者は様々な気づきや学びを得ることが出来たのではないかと感じました。

後半に行われた基礎研修では、荒巻さんより「機関協働について考える」というテーマでお話いただきました。

和やかな雰囲気の中、自分が専門職として何が出来るのか、どんな力(ストレングス)があるのか客観的に捉えること。関係機関の役割だけでなく、そこに所属する担当者(人)を知り、また自分自身(人)を知ってもらい、その上でつながることを意識的に行うこと。連携と協働の視点を理解し、「協働」するために必要な連絡調整の仕方など、演習を交えながらお話いただきました。エンカウンター要素盛りだくさんの研修では、共通の認識を持つことの難しさに苦しみながらも、みなさん積極的にいきいきと参加されていました。みんなで作り上げた90分となり、研修終了後も引き続き意見交換されている姿が印象的でした。

運営委員 高口恵美



今回、初めて養成講座を受講しました。大学時代からの夢であったSSWに少しでも近づきたい、実際にSSWとして働いておられる方のお話をぜひ聴きたいと思い、参加をさせていただきました。

今回の講座は派遣型におけるSSWの働きについての内容でした。実際の事例も紹介していただき、関係機関と協働して取り組んでいくことの重要性を教えてくださいました。その事例では、なかなか成果を出せず月日が流れていったということなのですが、それでもあきらめず関係機関と情報を共有し、明確にそれぞれの役割を分担して働きかけていったことで、少しずつ対象の家庭に変化が生まれてきたこと、そして段階を踏んで児童が登校できるまでになっていったとのことでした。すぐには結果が出なくても、あきらめずチームとして取り組んでいくことの大切さを感じ、とても勉強になりました。

今回の講座を通して、私がSSWとして働くことになった時、どのように動いていくべきなのか、何が出来るのかを具体的にイメージすることができたように思います。子どもの気持ちに寄り添って、子ども自身で課題に取り組んでいけるように、支えていけるSSWになりたいと今回改めて思いました。また、今後も勉強していきたいと思えます。貴重なお話を聴かせていただき、本当にありがとうございました。

賛助会員 村松静予

私は前回から研修に参加させていただいています。今回の研修に参加して、前回学んだ拠点巡回型と派遣型の違いを学ぶことが出来ました。派遣型は他の二つのタイプと違い、教育委員会にデスクがあり、要請に応じて学校を訪問するという形をとっていることを知りました。生徒に対して直接支援するというよりも、コンサルテーションやケースマネジメントといった間接支援が中心ということも他のタイプと異なる点だということが分かりました。

私はSSWに対して、複数の学校を決まった日に回るというイメージを持っていたので、このことを知り、少し意外で驚きました。しかし、教育委員会にいて他のSSWと相談をしやすいという良い面があると感じました。コンサルテーションによって、次に同じような問題が起こった時にSSWがいなくても、学校全体で解決できるような体制を整えることが出来るという面もメリットだと思いました。その一方で、学校に常にないないため、生徒や保護者、教師との信頼関係を築くことが難しいというデメリットも感じました。

実際に働いているSSWの方が、どのようにして難しい中で信頼関係を築いているのかをもっと知りたいと思いました。今回の研修で、実際の事例について聞き、予想していたよりも、複雑で困難な事例が多いと感じました。次回事例とそれに対する解決策についてさらに詳しく学びたいです。

学生会員 田中亜依



名札・名刺

- ・自分の身分をきちんと表すものだから
- ・子どもたちも結構興味を示してくれる



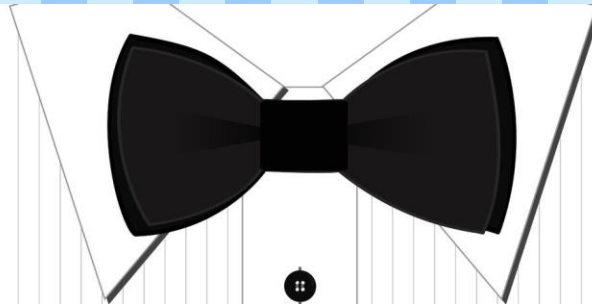
携帯電話

- ・いろんな場所へ動き回るSSW。学校や機関、保護者と連絡を取るため
- ・タイムリーに情報の共有、対応をするため



車

- ・フットワークの軽さが一番だから
- ・緊急時、即応的に行動できるから



特集 I

スクールソーシャルワーカーの仕事を行う上での必須道具は？

アンケートの結果、携帯電話と手帳の票数が多かったです。

道具といえども、時として仕事のパートナーとなり得るもの

SSW業務を行う上で、自分にぴったりなパートナーを見つけ、どのように協働していくかも大切なことかもですね。



知識

状況はいつも変わるので少しでも知識を培っておき、たくさんの引き出しをもっておくと支援を行う上で役に立つと思うから



手帳

- ・ひと目で一日の時間(予定)の流れが分かる手帳
- ・面接、会議、訪問等活動の幅が広い、スケジュール管理を行うため



パソコン

資料作成やアセスメント、プランニングシートの作成のため



母親であること



考える力



学校をよく知っていること



話しやすい雰囲気

特集2

学校ソーシャルワーク実践を行う上で、自身が持っている最強の強みは何ですか？

あなたにとって、あなたの強みはどんな存在なのでしょう？ 誰かにとって、あなたの強みはどんな存在なのでしょう？

支えてくれるもの？

ホッとさせるもの？

守ってくれるもの？

笑顔にさせてくれるもの？

光輝かせてくれるもの？

何かを忘れさせてくれるもの？

鼓舞してくれるもの？

導いてくれるもの？

言葉は同じでも、きっと誰かと同じものはないのでは…
誰が見つめるのか、誰が光らせるのかも様々なんでしょうね

自身の強みが誰かの中にも存在している
だからこそ、大切にしていきたいですね



あきらめないところ



笑顔



パワフルさ



ネットワークの軽さ

第6回研修会にてご協力頂いたアンケートをもとに作成しています。ここに掲載している他にもたくさんのお答えがございました。全てをご紹介できず、すみません。アンケートのご協力ありがとうございました。

非行問題と生徒指導
非行問題と生徒指導
非行問題と生徒指導
非行問題と生徒指導
非行問題と生徒指導
非行問題と生徒指導

子どもたちの声が聞こえていますか？



福岡県スクールソーシャルワーカー協会
第3回大会

2014.06.21 (SAT)

クローバープラザ (福岡県春日市原町3丁目番7号)

第1部 9:50-11:20

- ▶ 養成研修 (学生会員 賛助会員)
「学校ソーシャルワーク入門」
- ▶ 専門研修 (正会員 準会員)
「実践発表 -非行問題と学校ソーシャルワーカー-」
- ▶ 特別企画 (教育委員会、学校関係者)
「スクールソーシャルワーカー効果的活用のすゝめ」

第2部 12:50-16:50

- ▶ 基調講演
講師: 青木 宏 (大阪刑務所分類審議室 室長)
「非行少年とどう向き合うか」
- ▶ 大会シンポジウム
「非行問題と生徒指導
—今、私たち専門職に課せられた使命とは—」

あなたのもとにとどいている子どもたちの声は、

どんな形をしていますか？

どんな色をしていますか？

時間の経過とともに、子どもは大人になります

今、私たち大人にできることは何なのでしょうか？

一緒に探しにいきましょう

詳細については、後日お知らせ致します。



北原 咲香

佐賀県教育委員会 スクールソーシャルワーカー

先日コンビニに立ち寄るとそこには見覚えのある姿があり、声をかけられました。私が中学校を訪問し会っていた女子生徒です。「4月から保育士になるために福岡の短大に行きます。家庭の方はまあなんとか落ち着きました」という彼女。3年ぶりに会えたことが嬉しく、バイトをしている姿だけで立派なのに、夢に向かって頑張るとい報告を聞き、最高に嬉しくこの仕事をしていて良かったと思える瞬間でした。夢に向かう姿はこれほどかっこよく、私の気持ちまで動かす力があるんだと感激でした。6年働いているとこういう喜びも味わうことができるんだなと、また新たにSSWの仕事の魅力を発見しました。



研修事業より

今年度の研修会は、4月、6月、8月、10月、12月、2月の第2土曜日の開催を予定しています。（※6月の研修会は、6月21日の大会内に含まれます。）

開催時には、その都度メールマガジン等でご案内致しますので、ご確認よろしくお願い致します。

次回の研修会は、

4月12日(土)です。

ご参加お待ちしております。

facebook

事務局より

立ち上げています！！

『福岡県スクール
ソーシャルワーカー協会』

で、ご検索下さい。
最新情報を更新しています！！

FASSWからのお知らせ

広報事業より

- * 広報誌は、年に3回配信しています。
- * 次回の配信は、**8月31日**です。
お楽しみに～
- * 広報誌では、研修会に参加された会員の皆さまにご感想を頂き、掲載しています。研修会の折には、皆さまに執筆のお願いをするかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



発行責任者： 奥村 賢一

編集担当： 広報事業 蒲池 恵 寺田 有紀 森山 麻衣子

お問い合わせ

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 事務局

〒839-8502

福岡県久留米市御井町1635番地 久留米大学 文学部社会福祉学科 (担当/山崎)

Tel : 0942-43-4411 Fax : 0942-43-5160

E-mail : fassw-2012@hotmail.co.jp

